

研究課題名「成人の重症患者における経腸栄養の開始時期と生命予後との関連に関する研究」に関する情報公開

1. 研究の対象

2011年5月1日～2018年3月31日に、当院救急・内科系集中治療室に48時間以上入院し、栄養管理を受けられた、20歳以上の方

2. 研究目的・方法・研究期間

食事を摂るのが困難な重症患者の栄養管理として、主に、腸管を使用する経腸栄養法と、点滴による経静脈栄養法があります。経腸栄養は、経静脈栄養と比較して、腸管免疫の維持などに重要な役割を果たし、感染症の罹患率低下に寄与するという報告があります。また、経腸栄養を開始するならば早期から行う方が、生命予後の改善や、感染罹患率の低下に繋がるという報告があります。しかしながら、上記と異なる結果の報告も出てきており、現段階では、重症患者における適切な経腸栄養の開始時期や、適切な栄養投与方法が定まっていません。本研究では、経腸栄養の開始時期によって生命予後や感染症罹患率が異なるかどうかを検討し、適切な経腸栄養の開始時期を明らかにすることを目的としています。研究方法は、後方視的な観察研究であり、当院救急・内科系集中治療室に入室された成人の方を対象にし、電子カルテで、栄養投与方法や経腸栄養の開始時期、生命予後等を調べ、経腸栄養の開始時期と生命予後等との関連を統計学的に解析します。研究期間は、研究実施承認日から2019年3月31日までを想定しています。研究を主に行う組織は、名古屋大学医学部附属病院 救急・内科系集中治療部ならびに名古屋大学大学院医学系研究科 救急・集中治療医学になります。

3. 研究に用いる試料・情報の種類

情報：カルテ番号、年齢、性別、疾患名、重症度スコア（APACHE IIスコア、SOFAスコア）、BMI（body mass index:身長、体重を用いて算出）、集中治療室での滞在期間、生命予後（集中治療室の入室から30日時点での生死の別、集中治療室の入室から死亡までの期間）、下痢や消化管出血、嘔吐の有無、感染症合併の有無（血液検査データや微生物培養結果を参照）、栄養方法、集中治療室の入室から経腸栄養開始までの時間、経腸栄養の内容や投与量、敗血症・敗血症性ショックの有無、気管挿管の有無、血液浄化療法の有無、DNAR（do not attempt resuscitation）の有無 等

4. お問い合わせ先

本研究に関するご質問等がありましたら下記の連絡先までお問い合わせ下さい。

ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報及び知的財産の保護に支障がない範囲内で、研究計画書及び関連資料を閲覧することが出来ますのでお申出下さい。

また、試料・情報が当該研究に用いられることについて患者さんもしくは患者さんの代理人の方にご了承いただけない場合には研究対象としますので、下記の連絡先までお申出ください。その場合でも患者さんに不利益が生じることはありません。

照会先および研究への利用を拒否する場合の連絡先：

住所 名古屋市昭和区鶴舞町 65 番地

電話 052-744-2659

<研究責任者>

名古屋大学医学部附属病院 救急・内科系集中治療部 東 倫子

<研究分担者>

名古屋大学大学院医学系研究科 救急・集中治療医学 松田直之

名古屋大学医学部附属病院 救急科 沼口 敦

名古屋大学医学部附属病院 救急科 深谷兼次

名古屋大学大学院医学系研究科 救急・集中治療医学 錦見満暁

名古屋大学大学院医学系研究科 麻酔・蘇生医学 足立裕史